

COMIC MARKET 50~67

(有明ビックサイト以降)





カタログ表紙：白泉らら

代表あいさつ(コミケットカタログより)

いよいよ有明ビッグサイトでの第1回目、新生コミックマーケットの始まりです。コミケットの理念や理想、楽しさや面白さが変わるわけではありませんが、このビッグサイトという新しい容器に何を盛るか、何が盛りだくさんか、準備会としては生まれ変わったつもりで取り組んでいかなければなりません。そして、サークルも一般参加者の人たちも、この地に慣れ、そこを新たな自分たちの場所と変えていかなければならないのです。もっとも大きな変化は、ステータスのアップと、より開かれ注目されるコンベンションホールでの開催ということになるでしょう。今年4月のオープン以来、各メディアで特集が組まれ、ハトバスの観光に組み込まれるなど、ビッグサイトは大きな注目を集めています。イベントなどなくとも毎日多くの人達が物見遊山でこの地を訪れます。コミケット参加者だけしかいなかった晴海と違い、一般の人(区別するのもおかしいことですが)が、同じ空間を共有していることの意味は大きいはず。コミケットは、参加者は共存していかなければなりません。さらなる注目も集まるでしょう。マンガ、アニメ、オタク、コスプレ……流布されたマイナスイメージをプラスへ変えていくパワーをコミケットは要求されていくのです。それは気取ることでなく、卑屈になることでなく、きちんと自分たちを表現していくことに他なりません。

コミケットとは何か、もう一度確認しておくなら、自らの表現を人に伝えていく場であり、他者の表現を受けとめ自らを豊かにしていく、紙の上の表現を中心としたコミュニケーションの場です。そこには、人に伝えたいという表現者たちが居り、それを理解し、共に楽しみ考えていこうとする受け手たちがいるということです。そのネットワークが、さらに一般まで広がっていくなら、ヒエラルキーも戦争もなくなっていくかもしれません。自分が自分であることで、他者を認めることで、それをつなぐ表現を進めていくことで、夢は現世にさえるはず。——そこまで言わなくとも、少なくともコミケットのこの目だけは全員が「参加者」なのです。いつもの殺人的暑さも、クーラーの前には退散するかもしれません。よりよい本、人との出会いは求めさえすればかなうはず。日本最大、最新のコンベンションセンターへようこそ、そしてコミケットへようこそ。——この日はコミケットにとって、これからの長い日々の始まりであることはまちがいないでしょう。

開催日:1996年8月3-4日
会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
/東1~3ホール+東4ホール+西1~2ホール
参加サークル数:18,000SP 参加者数:350,000人

カタログ表紙:白泉らら カタログ価格:1,200円
うちわ:塚本ひじく 紙袋:セイン流 プレス表紙:S茶屋町
会場を有明に移してのコミケット。会場が広くなり、移動が大変になった。また、東と西に大きく分かれての開催となった。様々なトラブルが発生全ての併設イベントから苦情がきた。

マンレポ PICKUP

C51カタログより抜粋



C50カタログより

人気コーナー「お手紙・通販のスヌメ」はすっかりカタログに定着した。



カタログ表紙：黒沼オディール

代表あいさつ(コミケットカタログより)

混雑と喧騒の夏コミから四ヶ月、慣れない会場での未曾有の規模はちょっとばかりつらかったというのが正直な感想ですし、参加者の人たちにしても、西と東の通路の渋滞その他、いつも以上に疲れたコミケットだったかもしれません。準備会の新しい体制やシステムもうまく機能しなかったし、修正を加えねばならない箇所は山のようにあります。反省点は多く、問題は山積み、それでいてサークル数や参加者はこれからも増えていくはず。今のところ、同人誌界が、コミケットが、急激に落ち込んでいく要因は見当たりません。サークルが人を呼び、人がまた人を呼びというサイクルの中に収まってしまったコミケットは、まだ巨大化していく「恐れ」があるのです。しかし、今のところコミケットには一つの枠組みがあります。有明ビッグサイトという会場という容れ物がそうですし、夏、冬二回、二日間という形にしてもそうでしょう。その中でコミケットの理念と現実がバランスをとらなければなりません。コミケットはけっこう貪欲に何でもかんでも引き受けてこようとしてきました。それはそこに同一の「想い」があると信じてきたからです。同人誌が、活動が、こういう場が求められ続けているだろうからこそ、コミケットはそれを受け続けてきたのです。そしてコミケットが何とか綱渡り状態であれ存続してきたのは、参加者のそうした想いと協力があったためであることはまちがいません。しかし、二十一年目に入ったコミケットの状況は、もしかしたら変り始めているのかもしれない。バベルの塔の崩壊にも似た、コミュニケーションのズレがそここに生まれ始めています。とにかく、言葉を受け止めて下さい。理解して下さい。そして言葉を発して下さい。このわずかの時間立ち現われる共同体の空間を維持していきたいのなら、とりもなおさずそれは、あなたにとってのコミケットは何であるかという、準備会からの問いかけでもあるのです。

開催日:1996年12月28-29日
会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
/東1~3ホール+東4~6ホール+西1~2ホール
参加サークル数:22,000SP 参加者数:220,000人

カタログ表紙:黒沼オディール カタログ価格1,400円
紙袋:乃美やすはる プレス表紙:相田みゆき
有明初の全館制覇イベントとなる。この回より西地区4階に企業ブースを設置する。また、一部のサークルも参加して大規模な避難訓練が行われるなど、大きな動きのあったコミケット。

マンレポ PICKUP

C52 カタログより抜粋



C51カタログより





カタログ表紙：猫玄

開催日:1997年8月15-17日
 会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
 /東1~3ホール+東4~6ホール+西1~2ホール
 参加サークル数:33,000SP 参加者数:400,000人
 カatalog表紙:おがきちかと小笠原史・猫玄
 カatalog価格:1500円/2冊
 うちわ:まつながあやこ 紙袋:CHOCO プレス表紙:仙人の卵
 コミケで初めて“雨対策”を行った。暑さにはほど遠い、肌寒い夏コミ。
 カatalogを試験的に2分冊(販売は2冊組)に。

代表あいさつ(コミケットカタログより)

この夏のコミケは、東京ビッグサイト全館、しかも三日間という、これまでで最大のスケールで行われることとなります。参加サークルをより受け入れるには、日数を増やすしか方法がないことは解っていたことですが、それに伴う準備、リスクも大きく、なんといっても他のイベントとはケタ違いに体力を必要とするコミケット、参加者の持久力がネックになっていたのです。が、踏み出してしまった以上、頑張るしかありません。準備会スタッフが大変であると同時に、サークル、一般参加者も大変なことに変わりありません。十分に三日間の祭りを楽しむために、万全の準備で参加して下さい。暑さ、疲労etc. に対しては、想像力を働かせながら自衛してもらいしかありません。誰もが困っていたら助けはしてくれるかもしれませんが、自分のことはきちんと自分でやり、自分の行動には責任を持つことが全参加者に求められていることを忘れないようにして下さい。

さて、一日目はゲームジャンル中心です。新しい世代のパワーがそれを成立させてしまいました。色々な社会的事件の中で、ゲーム世代への批判なども集まっています。しかし、いったい誰がゲーム世界と現実世界を混同するというのでしょうか。日常や現実がきちんとあって、初めて異世界(これはマンガもアニメも同様)で遊ぶことの意味は生まれてくるはずですし。常識とかきちんとした現実認識なしにそうした虚構世界を十全に楽しむことはできないはず。自分たちの知らない世界や解らない世界(あるいは世代)を恐れ、批判することはこれまで何十回と行われてきています。必要なのはお互いに認め合うことであり、寛容性を持つことであり、表現者たちは自分の考えと、自分をきちんと伝え、理解しあうことでしょう。コミケットは「表現」を媒体に、互いにコミュニケーションを行う場なのです。そのことが、この場のみならず社会にまで広がっていけば、幾つかの問題は失っていくはずだと思います。自分をしっかりと持った上で、他者のことを同時に考えながら行動して下さい。それだけで、コミケットはより楽しく意味のある時空間へと変わっていくはず

マンレポ PICKUP

C53 カatalogより抜粋



C52カatalogより

コミケットロゴマーク審査結果

夏のコミケット51のカatalog誌上で公募したコミケットロゴマークですが、およそ60通のご応募をいただきました。数々の力作とありますが、ご多忙の中、これらに応募作品を元に代表選考委員及びコミケット準備会スタッフにより審査を行った結果、残念ながら採用作品はなしとさせていただきます。その理由としては、今一つ強烈なインパクトがある応募作品がなかったという点が挙げられます。このロゴマークはコミケットマーケットのシンボリック存在となるものでありますので、引き続くコミケットロゴマークを募集し、慎重に物事を進めていきたいと思っております。近い将来、皆さんにロゴマークを披露できる日がやってくるでしょう。ご期待ください!

なお、以下の2作品を佳作とさせていただきます。

- 静岡県 丸山恵美子さんの作品
- 東京都 笹川ひとみさんの作品

また、次の5作品を参考作品として、ここでご紹介させていただきます。

- 東京都 立田太一さんの作品
- 兵庫県 久保隆広さんの作品
- 栃木県 渡辺裕美子さんの作品
- 大阪府 会沢博子さんの作品
- 神奈川県 松本千洋さんの作品

佳作の方は豪華商品(笑)とこのカatalog、参考作品の方にカatalogをお送りします。ありがとうございます。

20周年を記念して一般公募を行っていたコミケットの公式ロゴマークの審査結果発表表が掲載された。



カタログ表紙：タカハシマコ

開催日:1997年12月28-29日
 会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
 /東1~3ホール+東4~6ホール+西1~2ホール
 参加サークル数:22,000SP 参加者数:300,000人
 カatalog表紙:タカハシマコ カatalog価格:1,400円
 紙袋:下北沢鈴成 プレス表紙:セツコ山田
 参加申込サークルの半数以下が落選という、厳しい抽選率だった。当日は天候にも恵まれ、特に問題もなく開催。

代表あいさつ(コミケットカタログより)

同人誌を扱った雑誌や本が巷にあふれ、ごく当り前のようにあちこちに特集やコーナーが設けられ、関連のショップや書店が生まれるようになっていきます。一般誌やマスコミの扱いも以前の特殊なオタク的なものという見方から変化しているようであり、現代の大衆文化の多くが、同人誌的なものをその中にもっているようです。それはある意味、コミケットが、同人誌が一般に認知され、社会性を持ったものへと変わりつつあることを示しているのかもしれない。親子連れが参加者が増え、二世でマンガを描く親子も出てきたといったことを考えると、同人誌はたしかに一つの歴史を持ち始めています。その長い時間が、そうして同人誌に関わってきた人たちの力が、少しずつ社会の見方を変えてきたことはまちがいはありません。また、現在の参加者の多くは、生まれる前からコミケットがあった世代でもあるのです。何のうしろぐらさも、抑圧もそこにはないのかもしれない。それは確固たる「文化」として小さいながらも場所を確保できそうな気配が見えてきています。

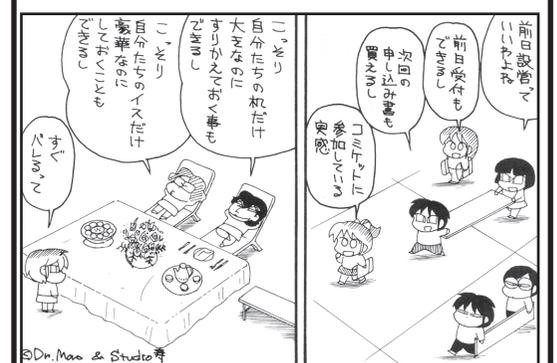
それが完全に達成された時、逆に同人誌やコミケットの持っていた「秘密」の、ちょっと「うさんくさい」、「マイノリティ」であるが故に生まれていた魅力は消えてしまうのかもしれない。にしても、個人の趣味、想像力、メッセージ、表現といったものが同人誌の基本にある限り、作品や本のあやうい、個性的な面白さは残るでしょう。コミケットは個を表現する場でもあるのです。しかし、この場を永遠に続けていくためには、世界や社会といったものにも思いをめぐらせてほしいし、他者とのコミュニケーションを考えてもらわなければなりません。ここにあるゆるやかなネットワークは、一つのバグによっても壊されてしまいかねないのです。人があって自分がある。自分を認めてもらうためには、人を認めなければならない。本を作ること、本を買うこともそうですし、コミケットの基盤はそこにあったはず。

マンレポ PICKUP

C54カatalogより抜粋



C53カatalogより



Dr.モロー氏のマンガより。設営日の前日受付、次回申込書の販売は現在は行なわれていない。

comic market

54



カタログ表紙：森永みるく

代表あいさつ(コミケットカタログより)

唐突ですが、選挙は行きましたか？ いったい何をと思うかも知れませんが、個人的な趣味の世界である同人誌界も、社会や政治と全く無縁ではありません。不況・円高・失業率の低下などはジワジワと同人誌にも影響を与えていますし、現在国会で審議中の「児童買春・児童ポルノ法案」なども成りゆきによっては同人誌の表現に大きな変化をもたらすことになるでしょう。選挙や政治にマニアや「オタク」が無縁であると見られることは、逆に無視して全てが高所で決定されて行くことにもつながります。個々求めているもの、見ているものは違っても、コミケットに数十万人の人々が居ることは事実です。それが票であるならば、無視することはできないでしょう。自らの表現、自らの趣味を守る為には、有るべき日常がそれなりにきちんとしていてもらわなければ困るのです。

政治や社会時代の空気といったものは、実は確固たるものではなく、人がつくり出すものだし、その人の中に自分が含まれていることを忘れてはならないと思います。

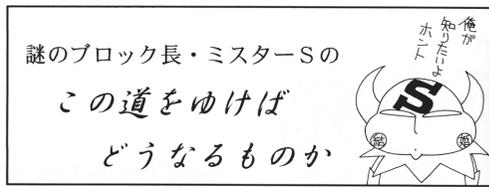
コミケットもまた、一つ一つの作品、本、サークル、個々の参加者が複雑にからみあって全体が生まれています。コミケットの当日のムードも、面白さも、参加者が作り出しているものです。たった一つの言動が、ちょっとした心ない行動が、周囲に伝わっていくとそれが全体の空気になってしまう場合もあるのです。二十三年間、コミケットがとりあえず続いてきたのは、参加者全員が、それぞれにコミケットに興味を見つけ、場を、人々とのつながりを大事にしてきてきた結果だと思っています。自分がいます。そして、ここには作品も含めて多くの他者がいます。それとの出会い、コミュニケーションの場であるコミケットは、他者を認めることから始まっているはず。否定や無視ではなく、全てを受け入れること、コミケットはまたそんな場であることを信じたいと思います。

C54 データと概況

開催日:1998年8月14-16日
会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
／東1～3ホール+東4～6ホール+西1～2ホール
参加サークル数:33,000SP 参加者数:380,000人

カタログ表紙:森永みるく カタログ価格:1,600円
紙袋:青樹総 プレス表紙:依澄査稀
前日設営時に何者かにより発火装置が仕掛けられ、厳戒態勢で当日に臨んだ。

C54カタログより



やあ、同人のみなさん、8ヶ月のごぶさです。今回謎の覆面ブロック長・ミスターSの「同人ガイド・1in・コミケット」のコーナーがやってまいりました。タイガージェットシンの故郷のほうでは反応兵器の実験をして世界は大もめ、日本ではアントニオ猪木が引退し、平成不況も長引き、われわれ同人誌を買う金が苦しくなっている今日この頃、それでもサマー・パンソート、オタク界の海辺のパカンス、同人夏の甲子園ともいわれる夏のコミケットは開催され熱気ムンムンの中、強者どもは本を買い漁る。そんな光景を見ると「ああ、日本の将来は安心だ」と思わずにはられません。

さて、堅苦しい前置きはこれくらいにして、さっそくみんなの質問に答えよう。今回は読者のキャリアのレベル差を考えて、初級・中級・上級と分けてみました。みなさん自分のレベルに合わせて、読んでみてください。

初級編
コミケットはどこが主催しているの？
コミケットの開催を準備し、運営しているのは、形としては「コミケット準備会」というところなんだ。ここでいばんえらい人が「米澤さん」という人なんだけど、コミケット当日は警察や消防署の人にあやまってばかりいるんだ。さっき、形として言ったのは、実際にはこの会は、まんがの好きな人たちがボランティアで集まっている所なので、会社と違ってヤル気がないととても動まないんだ。だからコミケットでは、参加するみんなも他の人に迷惑を掛けないようにして、わがままや文句ばかり言っていないでほしいんだよ。そんな心から、コミケットはみんなで作っていくものといわれているんだね。

有明でのコミケットも定着し、晴海以前のコミケットや準備会の仕組みを知らない参加者が増えてきたのがこの頃。カタログの連載記事でもネタに。

comic market

55



カタログ表紙：山本一隆

代表あいさつ(コミケットカタログより)

コミケットという場の中に居る人は、全て参加者である、とコミケットは言い続けてきました。同人誌を買いに来る一般参加者、本を頒布しに来るサークル参加者、場を運営するスタッフ参加者……客、売り手、イベンターではなく「参加者」と、考えているのは、コミケットが「場」でしかなく、その「場」の内実、つまり「コミケット」を創り上げているのは参加者であるという考えからです。コミケットの魅力は、面白さは、人のそれぞれであり、人々の創り出す表現のほうです。そして、コミケットは法的に違法であるものを除いて、あらゆる表現を許容していこうという方針でやってきました。しかし、夏コミで起きたような「妨害」行為「犯罪」行為までも「表現」として認めることはできません。表現は提示され、受け止めようとするものが、進んでそれを受け取り、何らかの形で返事を返すという、ひとつのコミュニケーションのルールにのっとっているものです。一方的に送り付けられてくる「害意」「悪意」は、表現ではないと思います。

自由な場、マンガ、アニメ、ゲームetcの好きな人たちが時間を共有できる空間として一時の「ユートピア」を求めてきたコミケットは、参加者の意志によって年に数日間出現する都市でもありました。ルールが守られ、それぞれがマナーやモラルを持ち、自分のことに責任を持ち、他人を助けることができる人たちが集えば、さらに規制や法律はいらない自由さを求めることができるとも思っていました。次々と新しい人たちが流入してくることもあって、同じことを言い続けなければならないにしても、コミケットは可能な限りの自由さを模索してきたはず。が、夏コミのような事件があると、自らを縛るような形で制限を行わねばならなくなっていきます。規制が強すぎると人は自由を求め、自由すぎると人は制限を求めるといったようなことをE. フロムという人は言っています。今回の場合、コミケットが生き残るために、当日は何事もないコミケットを開くために、いくつか行わなければならないこともでてくるかもしれません。

しかし、本当にコミケットが生き延びていくには、規制とか制限とかではなく、参加者全員の自覚こそ必要だと思います。この場は自分にとって何なのか、何をやらなければならないのか、何を求めているのか、そして、それが必要なものだと考えるなら、何をすべきなのか。もう一度参加者の方は、参加することの意味を考えてみて下さい。そうすることで、見えなかったものが見えてくるはずですし、新たな楽しみ方も生まれて来るはず。冬のコミケットは、次のコミケットの運命がかかった正念場でもあります。99年夏、またコミケットという場であなたと出会うために、参加者の一人としてできる限りのことをやるつもりです。全ての参加者にこの意志が届くように…

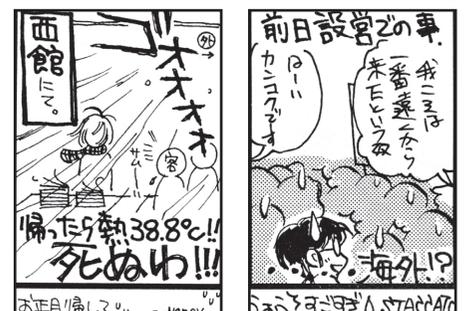
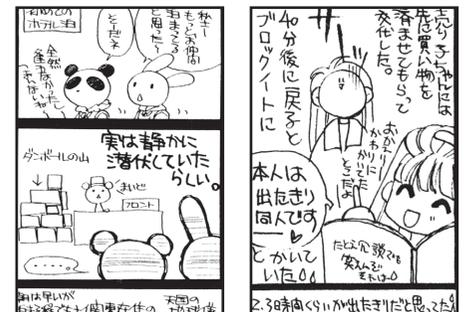
C55 データと概況

開催日:1998年12月29-30日
会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
／東1～3ホール+東4～6ホール+西1～2ホール
参加サークル数:23,000SP 参加者数:300,000人

カタログ表紙:山本一隆 カタログ価格:1,400円
紙袋:TORA プレス表紙:七瀬葵
前回同様、厳戒態勢で当日に臨んだ。

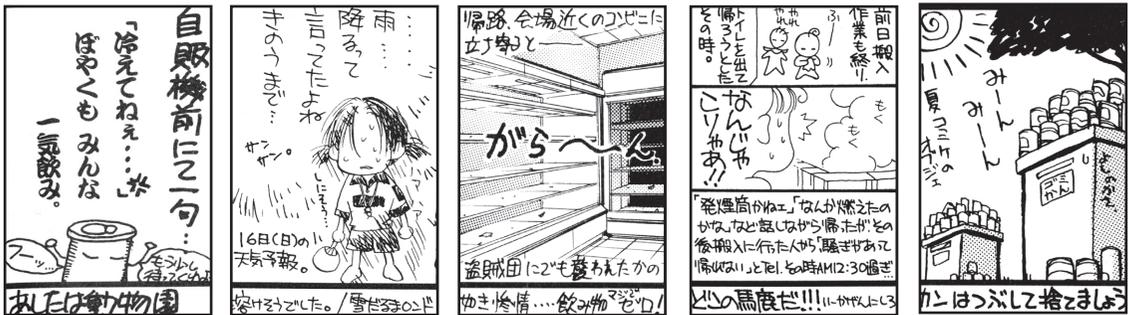
マンレポ PICKUP

C56カタログより抜粋



マンレポ PICKUP

C55 カタログより抜粋



comic market

56



カタログ表紙：平野耕太&山田秋太郎

代表あいさつ(コミケットカタログより)

正しくは2000年までが20世紀であるにしても、気分はすっかり世紀末。今年が無事終れば新世紀がスタートするといったムードもある今日この頃です。そして75年から始まったコミケットはこの冬25周年を迎えることとなります。始まった時は小ぢんまりとした場でしかなかったコミケットも、今や大きなものとなり、そこに集まる人たちが多くだけに社会的な目もあつまり、責任も生まれています。ごく内輪の交換会としか見えなかったものが、全体的規模で見ると巨大な市場となっていることも事実でしょう。しかし、その場の中で、個々に行われていることは、変わらずファン同士の交換であり、ささやかな「表現」の受け渡しなのです。森がいかにか繁ろうと、その1本1本の木が痩せているなら、やがて砂漠化が始まっていくでしょう。コミケットの場の基本は、本であり、作品であり、人であることは変わりません。

しかし、森が巨大化し、目立つようになっていくと、その中に内在していた問題も顕にされていきます。ワイセツ問題、税金問題、著作権問題、といったものは、小部数内輪故の同人誌が元々抱えていた「自由」と紙一重の問題でもあったわけです。本来「表現」は何処までも許されるべきものであり、同時に表現者は全ての批判を負う義務を持つものだと思います。また、様々なものに気を使い、おもねった形の表現は、その本来の力を失っていくことになるでしょう。同時に、そこそこの安定の上で冒険を行わなくなった表現ジャンルは、衰退していくことも間違いありません。マンガ、アニメ、ゲーム、小説etc.の可能性の枠を広げていくことはコミケットの目的であり、さらに驚くような、新しい面白さに出会いたいというユーザーの欲求を受けとめていくのは作り手側に常に求められることです。

商業ベースでは不可能なことが、きゅうくつな縛りのないはずの個のメディアの中では可能だったはず。法的制約は社会の中での活動全てにかかってくるものはあるにしても、まだまだ同人誌は、色々な可能性に満ちているはず。例えばパロディは、表現にとって捨ててはならない有効な方法の一つですし、「性」は、人類が生き延びる限り「表現」の大きなテーマであるでしょう。資料集成やリスト作製、研究、批判はファン活動の大きな幹でもあるはず。自由な表現のすそ野がなければ、そこから吸いあげていくプロダムもやがて枯れていくことは間違いありません。どう生き延びていくかということと自由を守ることの戦いは避けられないにしても、同人誌は、もう引き返すことの出来ない地平に来てしまっているのです。

ともあれ、暑いこの夏のコミケット、この場の熱気を必要とする参加者の方は、場が永遠に続くことを願い、よろしく御協力をお願いしたいと思います。コミケットは参加者の一人一人が、創り上げているものなのでから…。

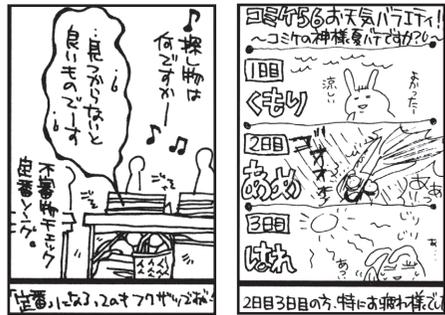
C56データと概況

開催日:1999年8月13-15日
会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
東1~3ホール+東4~6ホール+西1~2ホール
参加サークル数:35,000SP 参加者数:400,000人

カタログ表紙:平野耕太&山田秋太郎 カタログ価格:1,700円
紙袋:いちば仔牛 プレス表紙:睦月藤緒
2日目の朝から15年ぶりの大雨が降る。初めての大雨という人も。

マンレポ PICKUP

C57カタログより抜粋



C56カタログより

コミケは有限会社コミケットの登録商標です ~ 知的財産権と同人誌の用語集 ~
弁護士 石井 裕一郎

著作権侵害で逮捕とか、ホームページの開鎖とか、ビデオの販売停止とか、同人誌活動も法律の知識なくしてはできないような時代になってきました。ここでは、簡単に、同人誌活動に関連する知的財産権の法律用語を紹介し、皆さんの活動に役立ててください。

知的財産権 同人誌との関係が深い知的財産権には著作権のほか、商標権、意匠権などがある。関連法律は、商標法、著作権法、意匠法、不正競争防止法など。

商標法 法目的は、商標を保護することにより、商標の使用をする者の業務上の信用の維持を図り、産業の発達に寄与し、消費者の利益を保護すること。消費者の利益の保護が争われている点要チェック。消費者は商標を見て「製造元はどこか」「品質はいいか」を判断するから。

登録商標 商標権を得るためには、特許庁に出願して登録を受ける必要がある。有限会社コミケットは、商品「印刷物」役務「自費出版物の販売即売会の企画・主催・運営…」について文字商標「コミケ」「コミケット」「コミックマーケット」の登録を受けている。以下は登 4247910 号、指定商品「家庭用テレビゲーム機・印刷物…人形…コア…清涼飲料…」の、文字・図形からなる登録商標。商標権者は任天堂だ。



ピカチュウ

商標権 商標権者は登録商標を指定商品…に独占排他的に使用することができる。第三者は登録商標に類似する商標…に類似する商品…に使用することはできない。たとえば、前掲の登録商標から「ピカチュウ」の文字を除いた図形を書籍に商標的使用態様で使用したり、同人誌のイ

ンターネット通版で「コミケ」「コミケット」「コミックマーケット」の文字を商標的使用態様ページに掲載したりすると、商標権侵害となる。

TM マークと®マーク TMは商標(TradeMark)であることを意味する。他人の®付きの商標を使用するのは侵害の自由になりうるので大変危険。「知らなかった」といっても免責されないので注意。

著作権法 法目的は、著作物…に關し著作者の権利…を定め、これらの文化的遺産の公正な利用に留意しつつ、著作権者等の権利の保護を図り、文化の発展に寄与する作品を作るのだ! という気風をもってやりましょう。

著作物 思想、感情を創作的に表現したものであって、文芸、学術、美術、音楽の範囲に属するもの。表現(おもてにあらわれる)なので、頭の中しかないアイデアは著作物ではない。目に見えるもの(同人誌)、耳に聞こえるもの(自主制作CD)、手で触れるもの(フィギュア)など、少なくとも五感で感じられることが必要。

二次的著作物 著作物に対して変更や付加を加えたために新たな創作物性が認められた場合、二次的著作物になる。バーベキュー「少女革命クテナ」は原著作物、これを舞台化した高取美演出「魔界転生 熱演録編~麗人コルヴァーナ来歴~」の脚本は二次的著作物。二次的著作物にも著作権が発生する。これを第三者が無断で複製などすると、二次的著作物と原著作物の両方の著作権の侵害になる。変更・付加の程度によって、二次的著作物になるか独自の創作になるかが決まる。

◎マーク 万国著作権条約のみに加入している国では意味があるが、日本では、直接何かの法的効果が得られるわけではない。◎を書いたかどうか

この頃、同人に関する権利問題が話題に。その状況を受けて、カタログでも同人活動を行なううえで、ぜひ知っておきたい用語の解説ページが設けられた。

comic market

57



カタログ表紙：CHOCO

代表あいさつ(コミケットカタログより)

90年代は同人誌にとっていろいろあった十年間でした。「有害」コミック問題をきっかけとした自主規制から始まり、税金の問題、著作権とパロディ、そしてコミックマーケットへの脅迫状、テロまがいと、心安まることなくジェットコースターのように、ドラマティックに状況は展開していきました。幕張メッセから晴海への帰還、そして晴海会場の取壊しと、新会場東京ビッグサイトへの移転など、容器も大きく変わり、アニメパロの落ち着き、ゲームジャンルの隆盛など、その中身もまた大きく変化していきます。そして、実は、個々の事情や問題は、とりあえず落ち着いたり、日常化したものの、根本的には解決されていません。同人誌という存在そのものが元々抱えていた問題、巨大になってしまったコミケットが内包していた問題が、状態の変化、一般への認知度などによって、顕在化していった結果であるという見方もなりたつでしょう。それは日常とか現実となんとか折り合いをつけて、今もギリギリ続いていると言うしかありません。

同人誌という自由な個の、商業レベルとは違った「表現」が、存在しえない「場」を現出させていこうというコミケットという空間が、実は危ういものであるのだし、明確ではありませんが、「日常」と対立する部分で、その魅力を造り出しています。そこには、ルールがあり、人としてのモラルが必要です。もちろんそれは「反」ではありません。より良い日常、現実では難しい「個人」の価値を、表現を通じて見つけ出していこうとする場合は、現実とは微妙にズレた「夢」に近いのかもしれませんが。しかし、夢見なければ個人の中でも、何も変わりません。同人誌、表現、そして祭りは、「夢」の具現化という行為でもあるのでしょう。手垢のついてしまった「夢」という言葉を今さら持ち出すのは、もしかしたら、世紀の変わり目という時代の気分の大きな変化の中で、コミケットや同人誌も変わっていくという予感があるからです。

ただ、待つだけでなく、動き出す時期に来ているのかもしれませんが、それは過去を捨て去っての物ではなく、歴史を踏まえたものでなければなりません。少しでも前に進む為には、戻ることも、立ち止まることも許されないはず。90年代の最後のコミケットを一つの転機に、コミケットは変わりたいという意思を打ち出すべきなのでしょう。同時に、同人誌そのものも、サークルも、そして参加者も、個々の立場で、新たな世紀に向けて、変わって行って欲しいと思います。折り合いはつけても、日常に飲み込まれる事がないようにという想いを抱きつつ…。

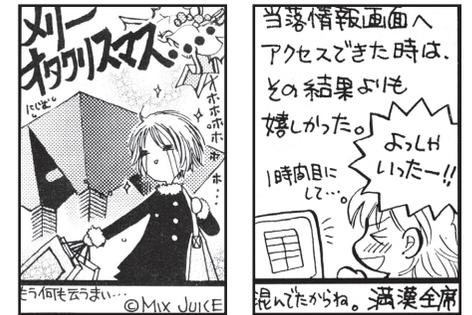
C57データと概況

開催日:1999年12月24-26日
会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
東1~3ホール+東4~6ホール
参加サークル数:25,000SP 参加者数:320,000人

カタログ表紙:CHOCO カタログ価格:1,600円
紙袋:りん プレス表紙:ひのき一志
カウントダウンイベント(後に中止が決定)の影響で日程が早まり、全館が借りられず、冬コミ初めての3日間開催となる。
CD-ROMカタログ開始。

マンレポ PICKUP

C58カタログより抜粋



C57カタログより



International Department Press
from the convention center and possibly be faced with legal action.

Welcome to the Comic Market (Comiket)

The Comic Market is a non-profit organization run by volunteer staff members. Our event has over 20 years of history, and the estimated number of participants for this upcoming Comiket is approximately 400,000. To make sure you enjoy this huge event safely, we ask all participants to follow the rules and regulations outlined by the Comic Market Committee.

The International Department desk is located in the East Hall. If you have any problems or questions, please feel free to visit!

For Detailed info in English-
<http://comiket.x5ca.net/>
For additional Comiket Info-
<http://www.comiket.co.jp/>

1. Any violation of the Japanese Federal Law or the Tokyo Metropolitan government's ordinance.
2. Smoking outside of designated areas.
3. Usage of fire or flammable objects.
4. Any form of mass gathering.
5. Any form of public performance, demonstration, or activities that may cause loud noises.
6. Distribution of leaflets and other forms of advertisement.

海外からの来場者のために、英文で諸注意を掲載している。

コミケットスペシャル3 リゾコミ in沖繩



カタログ表紙：ゲル田Ryu

SP3リゾコミin沖繩データと概況

開催日:2000年3月19日
会場:沖繩コンベンションセンター
参加サークル数:200SP
参加者数:1,500人

カタログ表紙:ゲル田Ryu カatalog価格:500円
コミックマーケット25周年の記念イベントとして開催された。

代表あいさつ(スペシャルカタログより)

コミックマーケット25周年記念、スペシャル出張版リゾコミin沖繩へようこそ。今回の即売会は本土から百数十、沖縄地区から百ほどのサークルが参加しての交流会的側面も持つイベントです。

東京のビックサイトで年2回開かれているコミケットは、毎回2万5千~3万3千サークル、3~40万人が集まる巨大なイベントとして知られています。その大きさの反面、アットホームな感覚は無くなりつつあります。いつもと全く違った即売会を求めて、5年に1回のスペシャル版をこの地で開くことになりました。

サークルの人たちにとっては新たな読者との出会い、いつもと違ったノンビリとしたイベント、違った企画などを楽しんで下さい。そして一般参加者(コミケッ

トでは読み手、買い手をこう呼ぶ)の人たちには、あまり見ることのない本土の同人誌、描き手の人たちに出会ってもらえたらと思います。その他、通常のコミケットでは行えないサークルの自己企画イベントもあります。本土から飛行機でやってきた参加者と沖縄のマンガ、アニメファンの交流が行えれば素晴らしいことですし、同じ仲間同士、楽しい時間が過ごせればそれだけで大きな意味があるでしょう。これが両方への刺激となって、さらに面白い同人誌が生まれれば、主催者としてうれしいことです。

なにはともあれ、気分を変えてこのリゾコミに参加してもらいたいと思います。この地の暖かさは、それだけでも十分にうれしいものなのでから。

リゾコミin沖繩カタログより

前夜祭とツアーのお知らせ

5年ぶりのコミケットスペシャル。始めて沖縄で開催するので、沖縄の方たちや当日の参加者の方たちと親睦を深める為に前夜祭を行います。ツアーに参加しない方、沖縄在住の方でもパーティだけの参加申込みも出来ますのでお問い合わせ下さい。
またツアー参加を御希望の方は、羽田・関西・福岡発着の飛行機便を一定数御用意しております。上記以外の便を希望する場合、宿泊のみを希望する場合、お問い合わせ下さい。別冊に御案内を希望する場合は、下記お問い合わせ先迄ご連絡下さい。

旅行プラン例 東京発着 2泊3日(3/18~20)68,000円
大阪発着 2泊3日()66,000円
前夜祭 ツイン対応、前夜祭料金は含まれておりません。
ラグナカーテン(3/18)7,000円
立食パーティ、コスプレOK

輝け!第1回 米沢杯争奪戦 参加者募集のお知らせ

前回のコミケットカタログでお知らせいたしました、「リゾコミコミケオプショナル企画・米沢杯争奪戦」の詳細が決定しましたのでお知らせいたします。

開催日 2000年3月20日(月曜日)
時間 早朝6時ごろから3時間程度
参加費 登録料500円程度

米沢杯争奪つり大会チラシ。トロフィーまで用意し力を入れて臨んだが、まったく釣れず散々な結果に。

その他詳しいお問い合わせは返信用封筒(長3・切手付き)同封の上、2月20日ごろまでに〒154-0001 世田谷区池尻 4-38-13 世田谷談話郵便局 コミケット内リゾコミ・米沢杯係 までお願いします。

なお、参加申し込みはリゾコミ当日でも可
また、入賞者には豪華な(笑)品品達です!

ストリート巻体所赤ひげリゾコミ急襲!

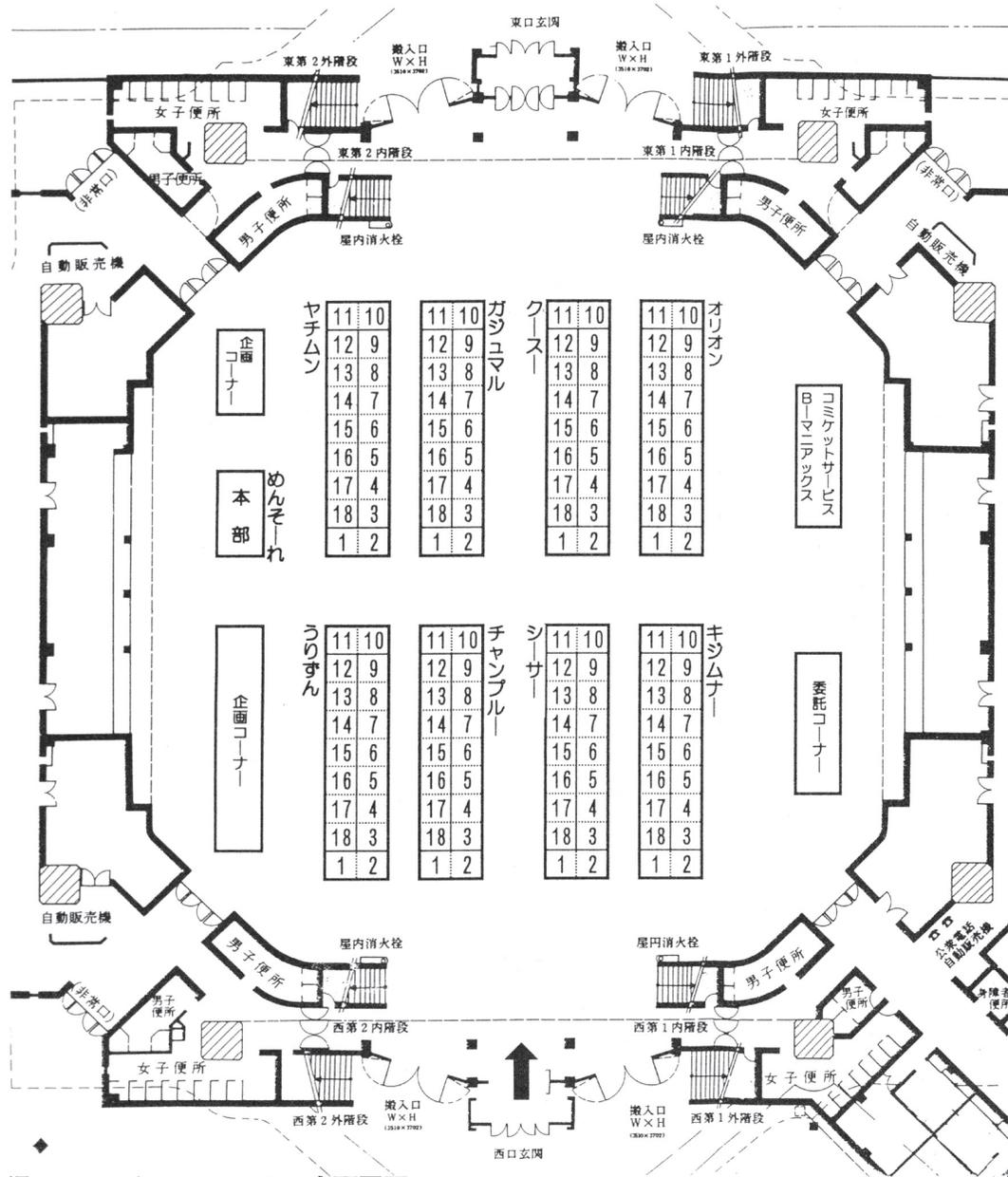
TVや雑誌で有名な健康コメディフォーマー 赤ひげ
前夜祭及びリゾコミ当日、会場にて開業!!
原稿描きやダンボール箱運びで疲れた体を
一発でリフレッシュ



東京・下北沢界隈で有名なマッサージ師、赤ひげ先生もパフォーマンスに参加。

chronicle リゾコミ

リゾコミin沖繩カタログより



沖繩コンベンションセンター内配置図

ブロックが沖縄に由来する名前となっている。

当日販売物一覧。
コミケットで販売した紙袋の在庫を持ち込み販売した。

当日の販売物一覧
リゾコミin沖繩カタログ 500円
記念パッチ(イラスト:CAT) 300円
25周年記念テレカ(イラスト:新田真子)3枚組2500円
コミケットプレス総集編(1~5)500円
紙袋(いろいろ) 300円
コミケット叢書1 政権伝説(滝季山影一著) 1200円
2 同人誌税理入門 600円

記念パッチ(イラスト:CAT)



私は、19歳のときにコミックマーケット準備会のスタッフとなりました。そのまま、いつのまにか、10年がすぎ、いつしか、現役スタッフのまま、弁護士資格を取得し、最近では、国際部に所属する傍ら、コミックマーケットの場をお借りして、表現規制に反対する活動を続けてきました。30周年本の一部をお借りして、コミックマーケットが直面した最大の危機であった、「児童ポルノ法改正騒動」についてお話をしたいと思います（弁護士 山口 貴士）。

「児童ポルノ法改正騒動に学ぶ」過ぎ去った危機とまだ、ここにある危機

言うまでもありませんが、コミケは表現の場です。「表現の自由」なくしてコミケは存在しえません。「表現の自由」は日本国憲法21条により保障された人権の一つではありますが、人権だからといって無条件に保障されているわけではありません。そもそも、非常に大雑把な定義をすれば、憲法上の「人権」というのは、多数決によっても侵害することが許されない基本的な権利のことで、逆に言えば、敢えて憲法の中に明文をもって「表現の自由」を保障したということは、これまでの歴史の中において、「表現の自由」がしばしば公的な権力（国や地方自治体）あるいは社会的な権力（企業や圧力団体など）から、制限を加えられようとして来たからに他なりません。

表現の自由は、表現形態あるいは表現媒体の発達とともに、その保障される内容がどんどん拡大されるようになり、市民がより多様な表現を享受することを可能にしてきました。反面、表現形態あるいは表現媒体の急な発達、新しい表現分野に対する人々の関心を集め、同時に、その表現分野について好ましくないと思う人々、あるいは、より極端には、その表現分野そのものを亡くしてしまいたいと思う人々からの批判や攻撃を招くことがあります。「同人文化」も、ここ20年前後で急激に発展した表現分野であり、その例外ではありません。

批判や攻撃のかなりな部分は、「未知なるものへの恐怖感、猜疑心」によるものです。このような批判や攻撃には、「誤解」に基づくものですから、こちら側から情報を発信し、説明することにより解消することが可能です。私の所属する国際部というセクションでは、海外のメディアの方々と話をすることが多いのですが、最初はコミケという独特の場に驚かされていても、きちんと話をすれば、分かって頂けることが大部分で、コミケットや同人文化の海外におけるイメージを良くする

ために役立っています。

もう少しやっかいなのが、「法律」（国会が制定するもの）あるいは「条例」（地方自治体の議会が制定するもの）による規制です。何故ならば、法律あるいは条例による規制は、本来の目的を離れてしばしば一人歩きをするからです。また、法律あるいは条例に違反した場合、罰則がついていれば、犯罪者として「逮捕」、「勾留」、「起訴」されて裁判にかけられることがあります。裁判の結果として「有罪」になれば、「前科」がつくこととなります。場合によっては、何年か刑務所で服役しなければならなくなる可能性もありますし、仮に、コミケットの参加者が逮捕されるようなことがあれば、コミケットが今後二度と開催できなくなる可能性すらあります。

つまり、おかしな法律が作られようとしているときに、何もしないで手をこまねていると表現の場を影響に奪われることになりかねないのです。

これまでに、法律の制定との関係で、コミケットが直面した最大の危機は、「児童買春・児童ポルノ禁止法」（以下、「児童ポルノ法」）の制定・改正問題だと思います。現在、日本の「児童ポルノ法」の定義する「児童ポルノ」には、具体的な被写体を持たない、マンガなどのキャラクター表現や、「絵」は含まれていませんし、また、この法律は「児童ポルノ」の単純所持（ただ所有しているだけ）も、処罰の対象とはしていませんが、1999年に法律を制定する当時も、2003年に改正が議論されたときにも、「マンガなどのキャラクター表現や絵」も「児童ポルノ」として、規制の対象とすべきだという議論が根強くありました。

もしも、「マンガなどのキャラクター表現や絵」が「児童ポルノ」の中に含まれた場合には、「児童」（＝18歳未満）に見えるキャラクターを使っ

た性的な表現（やおいやJUNEも当然に含まれます）を含む同人誌を作っただけで、児童ポルノの「製造罪」となり、コミケなどにおいて販売すると児童ポルノの「販売罪」となり、懲役刑も含めた刑罰に処せられるということになります。コミケの参加者＝「犯罪者集団」ということにもなりかねなかったのです。当然、コミックマーケットの歴史はそこで終止符を打たれ、「ジ・エンド」ということにもなりかねませんでした。

幸いにも、コミックマーケットの場所を借りた署名活動やインターネット上の意見交換活動、国会議員の先生方への地道な働きかけなどの活動が実を結び、「マンガなどのキャラクター表現や絵」も「児童ポルノ」として、規制の対象とすべきだという議論は国会には上程されることなく、「マンガなどのキャラクター表現や絵」を使った性的な表現をする自由は何とか守られることになりました。

このことから、コミケット参加者が学ぶべきことは2つあると思います。

まず、世の中の動きについて無関心でいることは許されないということです。これまでの「悪書追放」運動などとは異なり、今回の児童ポルノ法改正を巡る騒動は海外から来たものでした。

今回の改正を巡る議論の発端は、2001年12月18日に開催された「第二回・子どもの性的商業的搾取に反対する世界会議」（以下、「横浜世界会議」）でした。横浜世界会議は、日本政府、ユニセフ（国際児童基金）、エクパット（子ども買春、子どもポルノ、性的目的での子どもの売買根絶キャンペーン）らの共催によるもので、その名称の示すとおり、いま世界各国で問題となっている「子どもの性的商業的搾取」すなわち、子ども買春や子どもポルノを社会からなくすことを目標とした会議です。なお、第一回会議は1996年、ストックホルムで開催されています。

「児童ポルノ」（実在の児童を被写体にした）や「児童買春」行為などの「子どもの性的な搾取」が法的にも道義的な許されないことは、あまり異論を見ないところでしょう。ところが、この一見、非常にもっともな文脈の中で、マンガなどをただひたすらに規制しようとする動きが現れてきたのです。

次に、コミケット参加者が力を合わせれば、不

利と思われる情勢も変えられるということです。児童ポルノ法改正を止めるために活動をした有志のもっとも力強い味方となったのは、主にコミックマーケットにおいて集められた2万を超える署名でした。国会議員は選挙により選ばれますから、彼等を説得するためには、民意の後押しは非常に有効ですし、本音では「マンガなどのキャラクター表現や絵」を「児童ポルノ」として規制したい国会議員もなかなかその意見を表明しては言いにくくなった筈です。少なくとも、「マンガなどのキャラクター表現や絵」も「児童ポルノ」として規制されて当然、というような暴論は見かけなくなりました。

では、危機は過ぎ去ったのでしょうか？いいえ、違います。一度、「マンガなどのキャラクター表現や絵」が「児童ポルノ」とされてしまった場合、同人誌もコミケットも終わりです。しかしながら、規制を主張する側は、何度でも同じ議論を蒸し返すことが出来るのです。時が流れれば、世代は変わりますし、今回の危機も忘れられてしまうときが来ます。そのときに、同じ議論を蒸し返されて、うまく反対活動が展開できなければ、そのときには、理不尽極まりない規制が成立してしまうかも知れません。

そのような事態を避けるためにも、最低限度の理論武装は、全てコミケット参加者が持っている必要がありますし、後の世代に伝えていく必要が絶対にあります。理論武装とは言っても、そんなに難しいものではありません。極々常識的なことです。

1つ目は、キャラクターを用いた表現であるマンガが、直接に子どもの身体や人格を損なうことはあり得ないという、きわめて当たり前のことです。

2つ目は、性表現を含むマンガと、実際の性犯罪との間の因果関係は、長年の研究を経て立証されてはいないということです。

この2つを是非押さえておいて頂きたいと思えます。そして、身近で、犯罪をマンガ、アニメや同人誌のせいにするような発言があったら、すぐに、それが間違っていることを指摘して下さい。

日々の地道な啓蒙活動が、コミックマーケットの未来を守ると言っても過言ではないのです。

第1回目は、マンガ評論家、パロディも一つの方法論とするマンガ家などの方を中心に集まってもらい、これまでの問題を整理する方向で総花的に語ってもらっています。評論における引用とはどうあるべきか、フランスのパロディ法、アメリカのフェアユースの定理、マンガとパロディなどについて各人に発言していただきました。第2回目は、マンガやインターネットの問題について考えておられる弁護士、弁理士の方に、現在のマンガにおける著作権について、現状での法的解釈を語ってもらうという趣旨で行なわれました。日本のパロディマンガの先駆者の一人でもあるみなもと太郎さんに参加してもらい、マンガを描く側から気にかけている部分などを問題としてとりあげ、個々に法的解釈を述べていくという形式で進められました。



ここ数年、著作権(知的所有権)の問題が、大きく浮上ってきています。かつてないほどに、著作権に関する裁判が争われ、また著作権を守っているという動きも活発になってきています。「表現」の受け渡しの際であるコミケットをはじめとする同人誌即売会、趣味であるとはいえ値段を付けて頒布される同人誌においても、この問題と無縁でいられるはずがありません。海賊版同人誌など同人誌側が著作権を主張しなければならない事件もありましたが、同人誌はどちらかといえば、著作権を侵害する存在と考えられている側面もあることは否定できません。

しかし、明確な海賊版行為、無断使用による商品開発といった従来の事例とは異なった位相において、ファン表現、同人誌活動は捉えられるべき

ものかもしれません。評論、リスト、研究、資料集成といったファン活動において、本という体裁をとる中で、引用、図版の使用は欠かせないものです。あるテーマ、モチーフに沿ってこれまで発表された作品を研究、体系化する。細かな記事を集めまとめるといった基礎的な資料集も、扱い方では著作権に触れると見なされる場合も出てきます。が、こうしたファン、研究者たちの地道な研究や資料集めがなくては、文化の成熟は難しいというのはこれまでの歴史が示しています。

また、同人誌において大きな流れとなっているパロディの問題があります。既存の作品を一部使用したコラージュ、風刺、価値観の逆転を狙った従来のパロディと趣を異にする同人誌パロディは様々な形をとりま。オマージュ、サイドストーリー、やおいやエッチ系という形での捉え直し、キャラクターと設定という枠組みを利用してのオリジナルドラマ……そこでは、対象とされた作品の絵を模倣することが目的ではありません。その世界を共有すること、ファン同士のコミュニケーションツールとして、マンガは機能していきます。好きな作品の模倣から描き始めるという、マンガファンたちのストレートな作品活動の一つとして、パロディ的なものは位置づけられるものかもしれません。にしても、それもまた著作権の問題と大きく関わってきます。

が、多くの人たちが「著作権」とは何であるのかということをよく知らないのが現実です。同人誌の抱えている問題の一つである著作権は、表現との関わりにおいて簡単に答えの出せるものではないにしても、それについて考え認識を共有していくことが必要です。コミケットではその第一歩として、評論家・マンガ家・パロディ実作者などを招いてシンポジウムを開催することになりました。実際の事例、フランスのパロディ法、現状などを様々な面から語り合うことで、認識を深めていこうというのが目的です。決起集会でも結論を出すための討論会でもない、勉強会の第1回とお考え下さい。同人誌に関わる人たちのみならず、表現やジャーナリズムに興味のある人たちにとって、意味のあるものにしていければと思います。

米沢嘉博

緊急シンポジウム「表現と著作権を考える」告知チラシより

パネラー紹介

50名超

いしかわおじゆん
1951年豊田市生まれ。明治大学出身。76年プロデビューし、『聖闘』、『約束の地』などのパロディ的物語キヤグで好評を得る。その後、青年誌にどどまらず、各メディアで、マンガ、四コマ、エッセイと様々な分野の作品を発表。マンガ評論、レビューをまとめた『マンガの時間』の単行本発刊にも注目が集まった。BS「マンガ復活」のレギュラーでもある。

高野可憐人 (こうが めん)
東京都生まれ。J9、キヤブ風など様々な同人誌活動を経て、86年『メタルハート』(コミックVAL)でプロデビュー。87年スタートした『アーン』で人気を得、『夜城帝国』『新編』などヒット作を次々と発表。90年代の新しい少女マンガの旗手として、注目された。その後休刊期間もあったが、プロとして連載を続ける一方、同人誌活動も続けている。

高野可憐人 (たかとりえい)
1952年大阪生まれ。70年代末の三四郎編ブーム時『漫画エロジニカ』の編集長としてメディアに登場。同誌休刊の後、評論家、編者として活動する一方、月報『漫画』を主催し、自らのシナリオで『漫ミカエラ学術雑誌』、『少女革命ウテナ』などを上演し、多くのファンを持つ。著書に『性度めぐる』『マンガ伝(共著)』などがある。

竹内真依子 太郎 (たけうちまこと)
1960年東京都生まれ。自伝体編者を経て、編者、ライター、評論家、マンガ原作者など様々な分野で活動する。相沢コウジと組んだ『ザル』でも描けるまんが教室はパロディの力を借りた一つのマンガ評論として引用されることも多い。『視野秀明パノ・エヴァンゲリオン』『マンガの読み方』(夏目房之介共著)などがあり、「マンガ博士」としても知られている。

とりみき
1958年人吉市生まれ。79年『ぼくの宇宙人』(少年チャンピオン)でプロデビューし、ギャグマンガ家として活躍する。SFファンらしいパロディ的な作品から、サイレントマンガ、四コマ、エッセイなど、様々なスタイルの作品をメディアを越えて発表する一方、マンガ研究に寄与する仕事も多い。近作『石神伝説』では伝説SFに、挑戦している。

第1回 シンポジウム告知チラシより

夏目房之介 (なつめふさのすけ)
1950年東京都生まれ。出版勤務を経て72年『まんが』(黒の手帳)でプロデビュー。その後、マンガ家、イラストレーター、コラムニストとして『デキプロロー』など様々な作品を連載。83年に刊行した評論集『手塚治虫はどこにいる』以後、マンガ評論の仕事に積極的に取り組む。その仕事は評価され、99年には『手塚治虫文化賞』を受けている。

村上智彦 (むらかみともひこ)
1951年神戸市生まれ。『ブレイク/マイジャーナル』の編集を行ないながら、マンガ、映画の評論を執筆。また『漫画誌』、チャンネロゼロなどにも深く関わり、大阪を中心に活動も続けている。著書に『真昼通信』『マンガ伝(共著)』『情報誌の世界のなりたち』などがあり、『マンガ批評大系』の他編集の仕事も多い。

才木和夫 喜博 (よきわよしひろ)
1953年熊本生まれ。企業編集などの仕事を経て、マンガ評論を中心に大衆文化関連の評論を行なう。『戦後マンガ史』三原作の他『月刊太陽・手塚治虫大全』『免罪水』などこのころ、ウィジュアルブックの購読、執筆が多い。1月には『アメリカからマンガ』(高文社)を出した。またコミケマーケット準備会の代表を80年より務めている。

◆著作権者の権利の
◆新訂版『著作権法の解説』より転載

PN、徳文

第2回シンポジウム パネラープロフィール五十名超

坂田重典 (さかた しげのり)
1957年5月 岡山県 岡山大学 法学部 法学専攻 博士課程修了
1980年5月 弁護士登録
1988年5月 岡山大学 法学部 法学専攻 教授
現在岡山大学法学部教授に在職中
2000年 日本弁護士連合会 岡山支部 支部長
岡山県弁護士会 会長
岡山県知的財産権研究会 会長
岡山県知的財産権研究会 会長
岡山県知的財産権研究会 会長

加藤 浩一 (かとう こういち)
1958年 岡山県 岡山大学 法学部 法学専攻 博士課程修了
1980年5月 弁護士登録
1988年5月 岡山大学 法学部 法学専攻 教授
現在岡山大学法学部教授に在職中
2000年 日本弁護士連合会 岡山支部 支部長
岡山県弁護士会 会長
岡山県知的財産権研究会 会長
岡山県知的財産権研究会 会長
岡山県知的財産権研究会 会長

石井 隆一 (いしい たかひさ)
1950年3月 東京都 東京都立大学 法学部 法学専攻 博士課程修了
1980年5月 弁護士登録
1988年5月 東京都立大学 法学部 法学専攻 教授
現在東京都立大学法学部教授に在職中
2000年 日本弁護士連合会 東京支部 支部長
東京都弁護士会 会長
東京都知的財産権研究会 会長
東京都知的財産権研究会 会長
東京都知的財産権研究会 会長



カタログ表紙：朱目牌

代表あいさつ (コミケットカタログより)

コミックマーケットは4半世紀の歴史を経て、かつて冗談として語られた『2001年コミケットの旅』を現実、目前とするようになってしまいました。ここまで続くとは誰も予想しなかったでしょう、また現在のように巨大なイベントになるとも考えられていなかったでしょう。年2回のペースとは言え、時間に追いかけるように、ルーティンワークをこなし、目の前の問題を何とかすることに腐心してきた結果、時は確実に刻まれ、状況は拡大していったのかもしれない。が、その変化に身をゆだね、ある意味慣れてしまったことも事実です。時に過去を振り返って確認したり、大きくなってしまった問題の解決を試みたこともあります。生き物でもあるコミケットは、さらに手に負えないものへと成長していきます。準備会は主催者ではありますが、その創り出したものに振り回されているところもあるのです。小さな問題、小さな例外でさえ、放っておくと巨大なものへと変貌していきます。また、常に大きな問題を抱えているコミケットは、小さな問題に目をつぶらざるをえなかったことも事実です。

この場の中に出る限りの自由な表現と自由な出会いを現出させるために、コミケットは続いてきました。場の拡大は、戦線の拡大であり、それを持続させていくことによって、世界の中にその意味を定着させようという目的も持っています。準備会が、コミケットを持続させていくことを第一の目的にしているのは、それが存在できること自体に意味があると考えからです。しかし、歴史を持ってしまったコミケットは、既にあること、続いていこうとすることを前提として見る世代によって形作られるようになっていきます。何度も言ってきたように、コミケットは常に存続の不安の中にあります。ちょっとしたミスが、その歴史を断ち切るのですし、どれだけ人が来ようと社会的に「立派なイベント」と見られることはありません。表現はあくまで個的なものであり、それは何処までいっても体制とかいうものとはぶつかりあうものだからです。ましてマンガやアニメ、ゲームは、余裕の中で楽しめるサブカルチャーでしかないのです。それでも、そうした表現を人に伝えたいという人がおり、受け止めようとする人がいる限り、コミケットは続いていかなければなりません。そしてそのために、コミケットは、今一度余分な脂肪、たまっていた澱を取り去り、スリムなシステムを模索する時期に来ているような気がします。すっきりと解り易い形が何であるのかは、まだ解りませんが、2001年に向けて一歩でもコミケットは前に踏み出したいと思ひます。それは21世紀を生き延びるために、とるべき道であるはずなのです。

開催日:2000年8月11-13日
会場:東京国際展示場 (東京ビッグサイト)
参加サークル数:35,000SP 参加者数:430,000人

カタログ表紙:朱目牌 カタログ価格:1,700円
紙袋:古谷トシカ プレス表紙:このまつりえこ
開催2日目から3日目にかけて関東地方に台風が接近、開催期間中に目まぐるしく天気が変わりその対応に追われたコミケット。この回からCD-ROMカタログがMacにも対応。

マンレポ PICKUP

C59カタログより抜粋



カタログ表紙：六道神士

代表あいさつ (コミケットカタログより)

いよいよ、20世紀最後のコミケットです。年号など単に決められた区切りと言ってしまえばそれまでなのですが、継続して行なわれていることには、その区切りが結構重要なのではないかと思います。丁度四半世紀を迎えたコミケットは、この冬の59回目を一つの区切りに、21世紀に向けて新しいスタートをきらなければなりません。これまで、何度もコミケットは変更や決断を迫られてきましたし、いわゆる苦渋の選択をとらなければならない局面もありました。その多くが、外側からやってきたものでした。晴海見本市会場を経て現在の東京ビッグサイトに落ち着くまでに何度会場が変わってきたことでしょうか。同人誌についての自主規制を受け入れざるを得なかった事件については、もう十年ほど前のこととなります。回を追うごとに厳しくなっているサークルの当選率ですが、参加したいサークル全てを受け入れることができなくなり抽選方式になったのは、13年前のことです。時代や状況の変化によって変わり続けていくことをコミケットは自らに課してきました。個人個人の表現活動を出来る限り広く受け入れていくためでしたし、継続し、生き延びることを第一にしなければならなかったためです。コミケットが受け身であり続けてきたところがあるのは、そうした方針のせいでもありました。

しかし、2001年という新たなスタートに向けて、今度は自らの意思によって変わっていくべき時期に来ているような気がするのです。とりあえずにしてあった部分、仕方なく放置してあった問題、慣れの中で目に余るようになってしまった事柄...そうした諸々のことを今一度見直し、場として十全に機能していけるよう自らを整備していかなければなりません。一般参加者にとって、コミケットはマーケットであり、イベントだとするのなら、その機能についてもより高めていかなければならないでしょう。よりよいコミケットを目指すことはあっても、理想のコミケットを規定したくはありません。こうあらねばならないと決めた途端に、もっとあったはずの可能性は取り落とされていくからです。また、参加者のそれぞれの中に幻視される理想はまちがいに違っているからでもあります。コミケットは、一つのシステムです。そのことを念頭においてもらいたいし、そのシステムの中で何が出来るのか、何がなされていくのか、そしてそれを永久的に残していくにはどうすればいいのか。コミケットは、次の時代を射程に入れなければならないと思います。が、コミケットがファンと表現の出会う場であることは変わるはずがありませんし、それによって生み出される楽しさや刺激は、変わりはないでしょう。それを失わないために、参加者の方たちも新しい気持ちで、コミケットにおつきあい願ひたいと思ひます。

開催日:2000年12月29-30日
会場:東京国際展示場 (東京ビッグサイト)
参加サークル数:23,000SP 参加者数:300,000人

カタログ表紙:六道神士 カタログ価格:1,600円
紙袋:亜樹良のりかず プレス表紙:泉みなと
20世紀最後のコミケット。2年ぶりの2日間開催となった。

マンレポ PICKUP

C60カタログより抜粋



C59カタログより

東京都 青少年保護育成条例改正迫る!!

東京都の「青少年育成条例」の改正が2001年に予定されています。2月には議会でも決定され、4月には施行というスケジュールで進められていくことになっています。今回の条例改正は、主に「有害情報」「有害環境」の規制の強化にあります。特にメディアに対する規制が中心になっていることもあって、同人誌を始め表現や出版に関わっている人々にとっては無関係な物ではありません。そもそもきっかけは「完全自殺マニュアル」を盗んで自殺した人間が二人いたというので、こうした「犯罪・自殺」を誘発する様な出版物を「有害」図書として規制出来ないのかというところから来ています。2000年に入って、都の「青少年保護委員会」では本学教授会を招いて話し合いが何度も行われ、苦案案が出ました。この本を盗んで自殺を思い止まった人間はもっと多くいるなどの意見が出されたり、内容的なものまで明確して「この本の趣意が述べられたりした上で、最終的に出てきたものは規制やねむしと言った形のものでした。これまでに青少年に対して「有害」として指定されていた性根を壊したものに比べて、「犯罪・自殺」などを誘発する内容を持つ出版物を「有害」指定するという方向が確認され、同時に「区分別」に規制する方向も出てきたという内容がその趣意に反映されている様です。今回の条例改正は、成人向けと青少年向けとを明確に分け、青少年の目に届かないようにするもので、既来などで取られている「年齢」という手法です。法律や条例は、もともと「いま」に作られており、時代や状況によって変更が必要になってくるものであるという「犯罪や自殺」を誘発するといふ内容は読みかたによってかなり拡大して捉えることができます。ホームページ、ドラッグ、武器を扱ったもの、ヤンキー、自殺を勧誘するもの、暴力、異端、おもしろ、アゲアゲの絵と文字が並べられてしまっているものなど、何故ならフィクションは、創作的であることだけでなく、人間の無限の可能性を想定することでドラマチックな演出からです。もちろん、日常に生きていながらほんとは自分の心のどこかで、フィクションとして楽しもうとするのですが、そうした非現実を楽しむことや、「不健康」な夢を見るのが、青少年には許されないといふことなかもしれません。

2001年の都条例改正を前に掲載された記事。コミケットの開催にも関わるだけに、カタログでは早い時期から参加者への呼びかけを行っていた。

comic market

60



カタログ表紙：門井亜矢

代表あいさつ(コミケットカタログより)

新世紀に突入して半年が過ぎたのですが、時代の閉塞感を変わらないまま、かえって殺伐とした状況が進行しているように感じます。マンガ・アニメ・ゲームといったものを取り巻く状況もかつてないほど厳しいと言われてます。参加サークルは相変わらず多く、訪れる参加者も回毎に増加しているコミケットは、そうした時代の状況と無縁のように見えるかもしれませんが、決してそうではありません。オリジナルだけでなく、パロディや研究、ファンフィクションまでも含む同人誌は、文化状況とシンクロしながら動いていますし、表現は常に時代の気分を映しているのです。ただじっとしているなら、コミケットでさえ、時代の中に飲み込まれていくことになりかねません。

しかし、同人誌界はまだ元気であり続けています。だとしたら、受け身でいるだけでなく、この元気を時代やカルチャーに向けて発信していくべきなのかもしれません。飲み込まれていくのではなく、飲み込んでいくこと。具体的に言うなら、守ったり隠したりするのではなく、きちんとコミケットを、そして同人誌の作品を外に向かって見せていくことになるのでしょう。アメリカでは9月に初めての女の子たちによるイベント「YA01.COM」が開かれることになっています。サブではなく、マンガやアニメをカウンターカルチャーとして位置付けているのが海外のファンたちです。表現活動は、ファン活動は、恥ずかしいことでもなんでもない、文化活動です。

そして、それは、一人のヒーロー(指導者)や一つの考えの元に行われていく集団行動ではなく、個々の考えや営為を発表していくことだし、他者の見方や考え方を認めていく、多様性を追求することでもあります。コミケットは、個人を大事にし、多様性を確認する場です。それが表現の可能性を求めることにもつながっていくことはまちがいありません。今一度、原点を確認し、そこから一歩踏み出していくべき時に来ているのかも知れません。

折しも、北2駐車場の一部への病院の建設、北駐車場と会場の間への道路建設など、会場を取り巻く状況も、今年から来年にかけて大きく変わろうとしています。7月から施行される改定された都の青少年条例も、表現や頒布の方法に変化を求めるかも知れません。コミケットもこうした変化に対応して変わっていくことになるでしょう。いやいや変えることを受け入れていくことから、そうしたものをバネに求めるべき方向に自ら変わっていくこと。コミケットは、そして同人誌は、意識を持つべきだと考えます。それは、もちろん個人や表現、個々の多様性を守り、自由であり続けるための変化でなければなりません。コミケットは、参加者一人一人が意味を持っているのだし、全ての参加者によって形作られている巨大な夢の空間なのだからです。

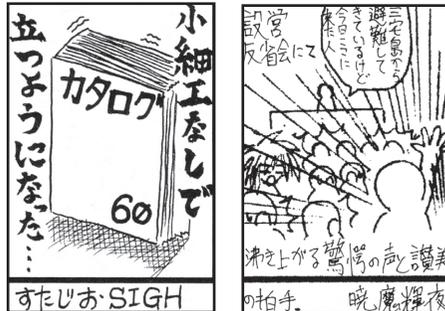
C60データと概況

開催日:2001年8月10-12日
会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
東1~3ホール+東4~6ホール+西1~2ホール
参加サークル数:35,000SP 参加者数:420,000人

カタログ表紙:門井亜矢 カタログ価格:1,800
紙袋:潮干珠生姑 プレス表紙:久下じゅんこ
21世紀初のコミケット。2日目は花火大会と重なり、3日目は雨天で最高気温が24度と肌寒い一日。さらに宅配業者の変更もあり、スタッフは対応に追われた。

マンレポ PICKUP

C61カタログより抜粋



C60カタログより



Dr.モロ一氏のマンガでも「犬」の愛称でお馴染みだったフットワークがこの春に破綻。宅配便による搬入出はクロネコ、ペリカンの2社に受け継がれたが、搬出時の受付が大渋滞するなど、しばらく混乱が見られた。

comic market

61



カタログ表紙：悠

代表あいさつ(コミケットカタログより)

2001年に入って次々と新しい出来事が起きてきました。確固たる日常がグズグズと崩れていく感覚は、本来ならフィクションが現実に対して与えられる虚構故の力であったはずですが、現実の出来事はそれを易々と行なってしまったのです。

そんな世界の中で、フィクションは何を書くべきなのか、そして読者はフィクションに何を求めていくのか、今一度問いをすべき時が来ているのかも知れません。また、マンガやアニメの世界でも様々なことが起きようとしています。7月には日本マンガ学会が生まれました。マンガを学問しようというのですから、冗談のようにも聞こえるかも知れませんが、これだけの歴史と拡がりを持つに到ったマンガは、もう少し歴史やデータの整理がなされなければならないでしょうし、その表現としての内実についてまじめに考慮されてもいいはず。僕も学界の理事という役割をしばらく務めることになりました。興味のある方は学会員になってもらいたいと思います。それに現在の進行具合は解りませんが、来年には東京都が中心になってマンガアニメフェスティバルをビッグサイトで開催するという話もあるようです。日本を、東京をマンガ、アニメなどの表現の発信地にするというのが目的なのだそうです。ジブリの森美術館、石ノ森章太郎美術館など地方自治体がマンガやアニメに関連する展示館をスタートさせたのが目立ったのも今年です。

こんなに、マンガやアニメがアカデミズムや国、行政に認められていいのだろうかと思う人も多はずです。認知されれば、本来そうした表現が持っていたアナーキーなパワーが失われてしまうのではといった懸念もあるはず。マンガやアニメにおまへは既に死んでいる!というセリフを吐きたくない人もいます。少なくとも、コミケットに集まる、好きだから描き、作り、読む人たちを見ている限り、そうした心配は必要ないと思えてくるのです。表現のアナーキーさはまだ様々なものを生みだしていくに違いありません。一にしても、コミケットという場はアナーキーであるわけにはいなくなっています。少なくとも、これだけ多くの参加者が集まる場は、出来る限りの表現を受け入れた上で、何も問題のない、それでいて自由で楽しい場であることを、見せつけ続けていかねばなりません。場や他人のことを考え思いやり、しかもルールやマナーを守り、個人を認めること。カタログを良く読み、サークルならばアピールを熟読し、そしてコミケットという場を理解しているならそれはそんなに難しいことではありません。初めての参加者や逸脱してしまう人にそれを伝えていくことも含め、コミケットというムーブメントに参加してもらいたいと思います。2001年はまもなく終わろうとしています。

C61データと概況

開催日:2001年12月29-30日
会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
東1~3ホール+東4~6ホール+西1~2ホール
参加サークル数:23,000SP 参加者数:360,000人

カタログ表紙:悠 カタログ価格:1,700円
紙袋:高川日志ノリ プレス表紙:中戸川収
深夜来場者をねらった暴行強盗事件が発生。また、雑誌の記事に刺激されて開場前に敷地内に入り込んでいた不正入場者を追い出す処置を取る。

マンレポ PICKUP

C62カタログより抜粋



C61カタログより



記事ページ「コミケットの事情」では、徹夜組に関する問題が詳しく解説されている。O&A方式で、徹夜組に関する問題が詳しく解説されている。

62



カタログ表紙: SHOICHI

開催日:2002年8月9-11日
会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
参加サークル数:35,000SP 参加者数:480,000人

代表あいさつ(コミケットカタログより)

これまでのいろいろと噂のあった、ビッグサイト周辺の状況の変化が、現実としてコミケット開催に影響を及ぼす時がやってきました。北2駐車場において病院建設がスタートし、2,500台あった駐車スペースは700台に激減しました。

2002年度は、まだ、駐車場だけの変更で終りそうですが、来年度は、北1の閉鎖にともない、一般参加者の待機列、都バスの乗降場も失なることとなります。深夜来場者どころか、一般の列をどうするか、交通機関をどうするか、印刷所の本の搬入をどうするかなど、解決され得ない問題が山積みです。

コミケットは、表現の可能性の拡大を目的に、自由な「場」を維持し続けていくというのが原点です。これまでの27年間、会場は次々と変わり、その場所に合わせる形で、様々なシステムの変更を行ない、生き延びてきました。

マンレポ PICKUP

C63カタログより抜粋



C62カタログより



コミケットでは、その時々々の状況に合わせて、導線や会場の利用方法がしばしば変更される。この回は男子更衣室の場所が変更された。

63



カタログ表紙: うたたねひろゆき

開催日:2002年12月28-30日
会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
参加サークル数:35,000SP 参加者数:450,000人

代表あいさつ(コミケットカタログより)

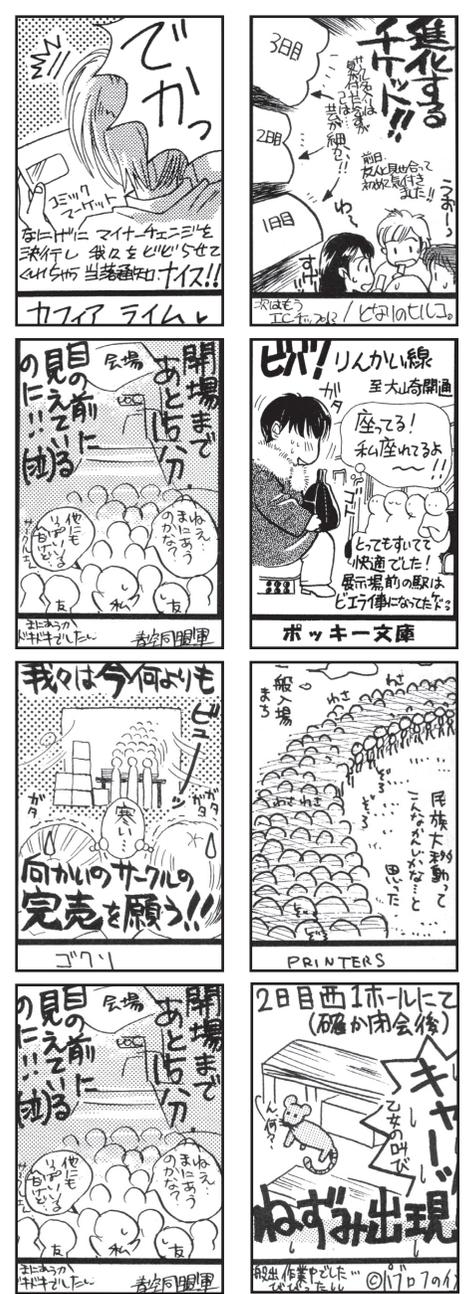
コミケットは27年目の冬を迎えようとしています。始まりの頃と今を比べるなら、大きな違いあるのですが、それは一回毎の変化の積み重ねの結果でしかありません。

コミケットの始まりの頃、ルールは暗黙の了解の中にありました。カタログはなく、一枚のチラシで事足りた時代、参加者たちに多くを言う必要はなかったし、ルールは自然に生まれていました。

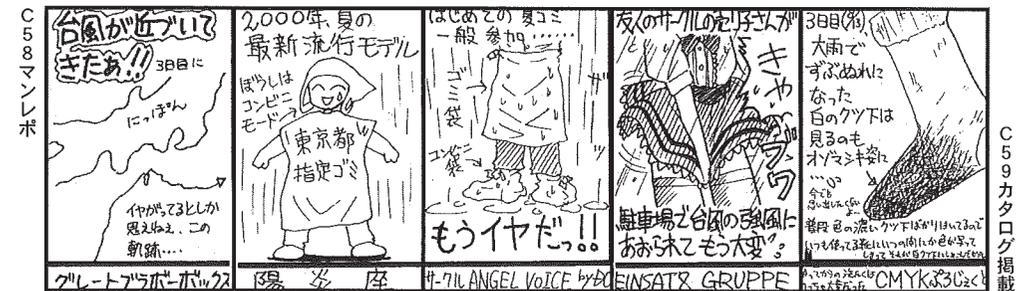
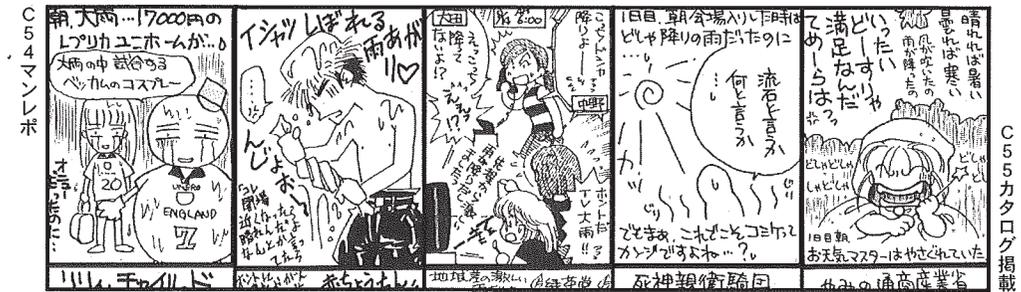
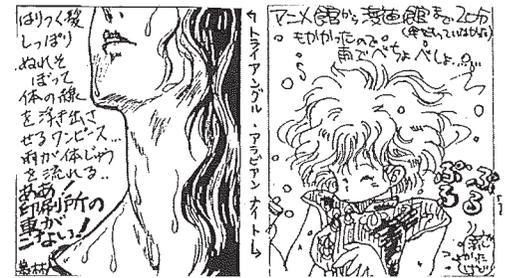
それにしても、今、大きく時代が変わりつつあることは事実です。コミケットでは参加者やジャンルの様変わりが実感できるようになっていますし、マンガ、アニメ、ゲームを取りまく状況も変わりつつあります。

マンレポ PICKUP

C64 カタログより抜粋



一時期コミケット当日は雨が降らないという神話がありました。また、右のページのように台風がコミケットに参加するのを嫌がった事さえありました。とはいえ神話はあくまでも神話で、実際には1985年の夏コミ (C28) では雨が降り、雨漏りなどの被害にあったサークルもありました。とはいえほとんど雨が降ることが無かったのは事実です。会場のキャパシティを越える参加者を屋外に並ばせなければならないコミケットにとって幸運が続いていても言えます。しかしそのツキも近年では怪しくなって、1997年の夏コミ (C52) に雨対策をすることとなりました。更に、開場すると雨が上がるというギリギリの一線も越えてしまい、雨が降らないというものは昔話と言った感があります。古参の参加者からは「近頃の若い者は気合いが足りない」などの冗談も出ますが、雨を物ともしない気合いを持っているとも言えるでしょう。



「宗教? 神ワザ?! 天気予報の森田さんもビックリ!

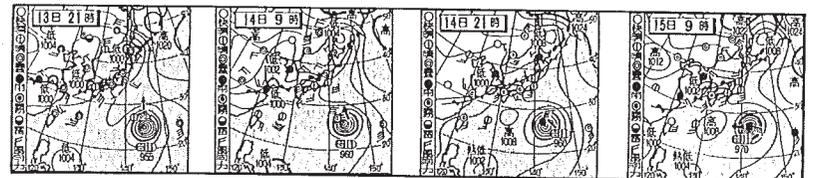
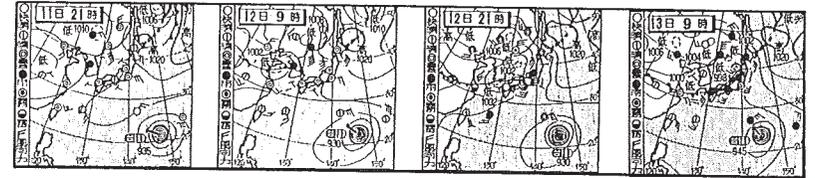
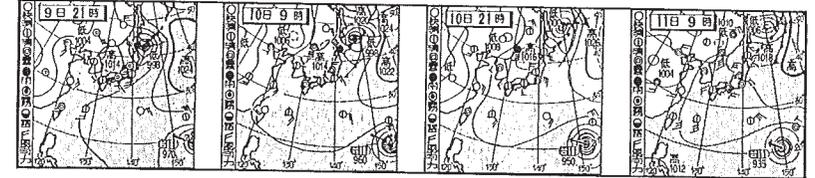
「台風がコミケ (晴海) をよけた!!」

いままで、コミケは「宗教してみてる」とか、「怨霊がとりついている」とか言われてきたが、ついに我々いかスポ特捜部は、コミケット42において衝撃的な事実をまのあたりにした。なんと、「台風がコミケをよけた!!」のである。

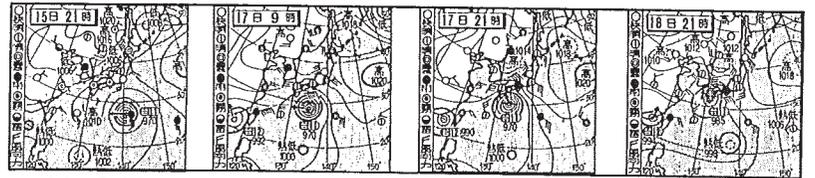
下の天気図を見て欲しい。8月9日には日本の遙か南に位置していた台風11号。普段なら円弧を描くように東京に近づいた後、北東方向へと進路を変え、過ぎ去って熱帯低気圧に変わるのが定番である。ところが、コミケ前の14日からいきなり進路を西へと変更し、関西地方あたりまで直進した後、通常通りの円弧を描くように日本に向い九州上陸、そして19日には通過後熱帯低気圧となり消滅した。

そう、どう考えても東京地方を「よけた」としか思えない! たしかに、今までのコミケは異常なほど天気に恵まれていた。しかし、ここまで「やおいの煩惱パワー」がすさまじいとは、まったく恐れ入ったモンである。とにかく、たかがホモマンガに賭けた執念が台風をもしりぞけてしまうこの現象は、同人世界7不思議の1つとして後世に長く語り継がれてゆくことであろう。

スタート→

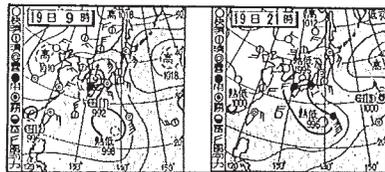


↑某即売会の悲劇はここから始まった



↑コミケ42初日

↑こころ辺がデンジャラス



→ジ・えんど

ちなみに、コミケ直後に開催されたコミックシティ in 神戸では、このコミケの分も併せて台風の被害を十分こうむったらしく、関係者のA氏等も「とんだトバッチリだ!!」と怒りをあらわにしていたらしい。

64



カタログ表紙：テクノサマタ

代表あいさつ(コミケットカタログより)

マンガが元気がないと言われてます。アニメにしたところで、アカデミー賞の朗報はあったものの、かつてほどの盛り上がりはありませんし、ゲーム業界では厳しいという話しか聞こえてきません。音楽業界でもCDの売り上げは落ち込み、映画の衰退は相変わらずです。サブカルチャーとかカウンターカルチャーと言われた、若い世代を中心にしたポップカルチャーは、その勢いをますます失っているように見えます。その内容や表現というより「産業」として衰退しつつあるというのが実状かもしれません。今一度、団塊の世代(戦後ベビーブーム世代)を消費のターゲットにしようという話まで出てきています。

そんな中、同人誌界は変わらず元気ですし、元気に見えるようです。新たな若い世代も増え、ジャンルは入れ替わりながらも、コミケットをはじめ即売会は盛況です。何故なのかという分析は置くにしても、だからこそ、同人誌やコミケットに新たな注目が集まり始めているようです。言うまでもなく、不況やカルチャーの衰退の中で、そこだけが華やいているからでしょう。その謎を解くために、またそれを他に生かせないかと、様々な分野からアプローチが行われていく可能性もあります。コミケットや同人誌は、これまで以上に注目されていくような気がしてなりません。

もちろん、コミケットはこれまで同様、たんと回を重ね、自由な表現の場を維持していくことに務めるだけです。個々の多様性を認めながら、出来るだけ多くの作品、本が生まれる状況をサポートしていくことに変わりはありません。サークルには、自分の作品や本をより良く、面白くしていただきたいし、参加者の方には、ここで新たな面白さや可能性を、より広く見つけていてもらいたいと思います。それは「表現」を手渡すような単純なシステムの中にあります。本や作品を媒介とした人と人とのコミュニケーション、ダイレクトな形での出会い。コミケは古くて新しい「場」であるはず。時代が変わろうと基本は変わりません。

そして、根本的な部分を守るために、表層は変わり続けていきます。今回も、会場の周辺状況の変化、会場システムの変更、交通機関を始めとした状況の変化などもあって、これまでと違った対応をしなければならないものが出てきています。ジャンルの盛衰、参加者の変化なども当日の流れに影響を変えることになるでしょう。新たな法律の施行も事態に関わってこないとは言えません。参加者の内実、時代や状況によって変わり続けていくコミケットですが、しかし、変わらないもの、変えていけないものあることを知ってもらいたいと思います。それは、たぶん、人として権利に関わる部分なのかもしれないと思います。

開催日:2003年8月15-17日
 会場:東京国際展示場(東京ビッグサイト)
 /東1~3ホール+東4~6ホール+西1~2ホール
 参加サークル数:35,000SP 参加者数:460,000人
 カタログ表紙:テクノサマタ カタログ価格:1,800円
 紙袋:御茶漬海苔 プレス表紙:杉本要
 設営日を含め、4日間の全日程が雨で肌寒いというコミケット史上
 最悪とも言える天候。参加者にとっては大変な状況だった。

マンレポ PICKUP

C65カタログより抜粋



C64カタログより

海外でSARSが流行中だったため、Dr.モロ氏のマンガのネタにも……。コミケット当日の対応を心配する声もあった。



65



カタログ表紙：ミギー

代表あいさつ(コミケットカタログより)

年末の忙しい中、日取りも厳しい3日間、今回のコミケットは開催されます。夏コミはまだしも、冬コミはいつも、もっとなんとなくかならんかと、主催者側も思うほど日程はよろしくありません。春休み、夏休み、冬休みに一回ずつという形でスタートしたコミケットは、春コミを会場の都合などで断念したものの、その後も夏、冬で続いてきました。そのスパンの中で、会場のスケジュールと調整しながら日程は決められていきます。ベストではなく、よりベターな形で開けるよう希望は出すのですが、ビッグサイト全館が4日間空いており、周囲にも迷惑をかけないなどの条件をクリアすると、結局、他のイベントが使えない時期に落ちてしまうのです。コミケットは、一箇所に何十万人と集まるが故に、交通渋滞、周辺での携帯電話の使用不可能など、様々な事態を引き起こしまえ逆に、人が集まることで周辺の店の売り上げは伸び、経済は活性化され、にぎわいが生まれます。市が、祭りが、都市が、その場を変えるのです。その状態は日常とは違っているために、インフラなどの対応は間にあいません。おそらく、年末のこのいそがしい時に、ビッグサイトは他の空間とは違ったにぎわいを見せていることでしょう。日常とのこの差異もコミケットが特殊な空間であることを示しています。そしてそれを受け入れる時空間は、さらに狭められていきます。

しかし一方で、コミケットが日本のポップカルチャーの発信地であることの認知は確実に進んでいますと同時に、マンガ、アニメ、ゲームといったものが、日本の重要な輸出コン

テンツであるという認識も生まれています。そこから影響を受けた大ヒット作も次々と登場し、海外の評価が再輸入されてくるのです。年2回のコミケットは、半分は年間スケジュールに組み込まれ、日常と化しているところもありますが、そこで生まれ、変質していくものは、まぎれもなく、日本が、コミケットが生み出した「表現」のはずです。内部ではまだ何処か気恥ずかしげに語られる同人誌は本来、もっと自信を持って誇っていいはずの「作品」ではなかったのでしょうか。日本の文化が、新たな表現が、ここにはあることをコミケットも、自信を持って語っていく時期にきているのかもしれない。

自由に表現できること、自由に受け渡してできること、それが経済を含めた活性化現象を起こしていることはまちがいありません。自由さと混沌としたワイ雑さが示すエネルギーは、しかし、無秩序さと見られることもあります。そして、治安悪化、目に見える部分での少年犯罪増加の要因などを、表現、メディア、活気のある社会に求めようとする動きも出てきています。現在、緊急指定、包括指定を青少年健全育成条例に入れるべく都の条例改定が進められています。行政による表現の取り締まりは本来あってはならないし、健全な育成のモデルたる人間だけの世界は、想像するだに恐ろしいものではないでしょうか。また、道徳的で秩序のある社会がもたらす平穏は、多様化の流れやエネルギーをそぎ、やがて必ず別離の軋轢を生みます。必要なのは、個を認め、多様性を受け入れ、共存できる、ゆるやかなルールと共感性に基付く社会なはず。コミケットにはそうあってほしいし、そうであると信じています

C65カタログより

カタログの諸注意ページカットより(イラスト/麻生海)



